



VOL.68  
2024.6.25 発行



ひびの さとる  
**日比野 悟**  
浜松営業所 運輸班長

20年前に中途採用で入社した日比野悟さん。入社以来、浜松営業所の乗務員として活躍し、現在は配送業務に加えて、運輸班長としてメンバーの取りまとめや班長ミーティングへの参加などの業務も担っています。周囲をよく観察し、社内外問わず積極的にコミュニケーションを取っている日比野さん。仕事を行ううえで心がけていることや、過去の失敗談などについて伺いました。

——南星キャリアックス株式会  
社で働く魅力を教えてください。

魅力は、人だと思います。上司や先輩社員は優しくて尊敬できる方ばかり。また、企業として進化し続けている点も魅力だと思います。社である「喜ばれることに、喜びを。」という言葉にとっても共感しており、いつも念頭に置いて働いていますね。

——仕事を行ううえで心がけていることは何ですか。

最も大切にしているのは、コミュニケーションです。お客様先では、必ず挨拶から仕事を始めるようにしています。そして、「ありがとうございます」といった声かけも重要です。私は営業担当者ではありませんが、積極的にお客様と交流して、いつか新しい案件の受注につながりたいと考えています。

もちろん社内でも、コミュニケーションを取るように心がけています。現在、運輸班長という役職を任されていますが、私はあくまでも「乗務員の代表」だと思っています。そのため、偉そうに振る舞うことなく、いつも乗務員目線で物事を考えるようにしています。加えて、「乗務員の代表」としては、チームワークを意識。一緒に働く仲間とは、話し合いの場を頻繁に設けています。そのよ

うな中で、乗務員の皆さんが考えていることや、改善点を引き出して会社や上司に伝えるのが私の役目。会社や上司に伝える際も、意見をぶつけるのではなく、あくまでも情報交換という姿勢で接しています。

——これまでに失敗した経験はありますか。

入社当初、日曜日にお客様へ荷物を届けるといったイレギュラーの業務を頼まれたときのことです。ほかの業務はなかったため、出すのは私一人。「代わりのいない、大事な仕事である」と認識していましたが、当日の朝、寝坊してしまっただけです。本来ならば、すぐに上司に連絡するのが正しい対応。しかし私は、誰にも連絡せずにお客様先に向かいました。その途中で上司から電話があり、「お客様から『まだ来ていない』と連絡が入ったが、どうなっているの

だ」と聞かれました。当時まだ若かった私は、自分の失敗を受け入れられず自暴自棄になり、「会社を辞めます」と上司に宣言。そこで上司は、私を怒ることなくフォローしてくれたのです。そのときに、「何て優しく、社員思いの会社なのだろうか」と感銘を受けました。この経験があるから、これまで続けてこられたのだと思います。

——若手社員に向けて、長く働  
き続けるためのアドバイスを  
お願いします。

楽しくなければ、仕事は続かないと考えています。配送業務は、同じお客様の荷物を同じルートで運ぶだけで、変化や刺激がないと考えている方もいるでしょう。しかし、よく周囲を観察してみると、毎日少しずつ何かが異なっているのです。そのような点に、私は楽しみを見出しています。また、落ち込むような出来事が

——最後に、今後の目標を聞か  
せてください。

私は、弱点が多い人間です。毎日前向きに働いていますが、思い通りにならないと不機嫌になることもあります。そのような短所を、できるだけ改善していきたいと

思っています。また、配送業務は、誰でもすぐに行える仕事ではありません。そのため、人材教育が大切だと感じています。今後は若手社員の育成にも携わり、これまで会社が築いてきたノウハウを次世代に継承していきたいと考えていますね。

「安全が最優先ですが、業務の効率化にも取り組んでいきたい」と語った日比野さん。これからも、仕事を楽しい姿勢を保ちながら成果を上げ、南星キャリアックスの未来を切り拓いていくでしょう。

